

【政府・文部科学省の動き】

●大学に教員研修を義務化，文科省が設置基準を改正

文部科学省は大学教育の質を高めるため，2008年度にも全大学に教員を対象にした授業方法の研修などを義務づける方針を固めた．大学設置基準を改正し，現在は努力義務としている研修などの実施を義務化する．大学進学率の上昇で学生の平均学力が下がり，高校段階の復習なども含むきめ細かい指導が必要になっていることが背景にある．（日経ネット 07/01/06）

<http://www.nikkei.co.jp/news/shakai/20070106AT1G0502G05012007.html>

●国立大の授業料，より自由に設定 文科省，08年度から

国立大学の授業料と入学金について，文部科学省は08年度から，大学がより自由に決められるよう制度を見直す．各大学は現在，文科省が目安として定める「標準額」の1割増しを上限に金額を決めているが，これを2割増しまでに広げる．ただ，多くの大学は受験生離れを招きかねない値上げに慎重で，実際にどれぐらい差がつくかは不透明だ．（朝日コム 07/01/04）

<http://www.asahi.com/edu/news/TKY200701030322.html>

●教育再生会議，会見の中身「薄味」激論の場公開を

安倍政権発足から間髪を入れずに発足した教育再生会議を追いかけてきた．追いかけてと言っても，会議は非公開だ．後日，議事要旨や議事録がホームページで公開されているが，会議の当日は，終了後，委員や事務局のスタッフに個別に聞くか，会見で迫るか．後は会議室のドアに耳を押し当てるぐらいしかない．だから会見は大事なのだ．（読売オンライン 06/12/30）

<http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/news/20061230ur01.htm>

●ピンチ 国立大の研究教育，3年で371億円 連続減 地方大学 教員1人あたり 半以下に

国立大学法人に対する国の運営費交付金が来年度予算案で法人化後最大の削減になり，大学の研究教育条件に深刻な影響が懸念されています．現状でも「大学研究室の困窮顕著」（科学新聞）とメディアも大きくとりあげ，科学技術立国を掲げる足元の国立大学が苦境に立たされています．政府の予算案で国立大学法人運営費交付金は前年度比171億円減（1.4%減）．2009年度まで毎年1%削減するという政府・文部科学省の計画をも大きく上回ります．独立行政法人化した04年度から連続削減で総額は371億円になります．（しんぶん赤旗 06/12/31）

http://www.jcp.or.jp/akahata/aik4/2006-12-31/2006123102_04_0.html

●文科省，大学などの先端研究設備を企業が利用する施策を開始

文部科学省は，大学や公的研究機関が所有する先端研究向け施設を，企業などが研究開発に利用できる新施策を平成19(2007)年度から始める．施策の名称は「先端研究施設共用イノベーション創出事業産業戦略利用」．大学や公的研究機関の施設を企業が利用しやすくし，イノベーション創出のタネをつくるのが狙い．予算額は13億8000万円である．（日経BP 07/01/15）

<http://www.nikkeibp.co.jp/news/manu07q1/522530/>

●赤潮，黄砂，大気汚染など研究 福岡で日中韓会合 3カ国科学技術相が合意

日本，中国，韓国の科学技術相による初の会合が12日，韓国・ソウルで開かれ，赤潮や黄砂，大気汚染など東アジアが抱える課題の共同研究を目指す3カ国専門家会合を3月5，6日に福岡市の九州大学で開催することに合意した．専門家会合では，文科省側が3カ国共同研究プロジェクト候補として，東シナ海での有害赤潮▽SOxなどによる大気汚染と気候への影響▽黄砂▽水質浄化技術開発▽バイオマス利用技術ーなど7つの課題について共同研究の具体化を目指

すという。(西日本新聞 07/01/12)

http://www.nishinippon.co.jp/npn/national/20070112/20070112_065.shtml

●迫られる研究費配分の審査法見直し

教授、助手の懲戒解雇に至った東京大学大学院の論文ねつ造疑惑を、10日夜のNHK報道番組「クローズアップ現代」が、取り上げていた。当事者である教授、助手のインタビュー映像をはじめ、研究費配分のありかたにまで踏み込んで、疑惑の起きた原因に迫っていた。「研究費を交付する審査にも問題があったのでは」というキャスターの質問に、科学技術振興機構の北澤宏一理事(日本学術会議会員)が答えていた。「最近、論文を引用されやすい論文誌に論文を出す、それもなるべくたくさん出す。それが研究成果の高い人だという風潮が出てきた。それを研究費の配分においても偏重しすぎたきらいがある。」(SciencePortal 07/01/11)

<http://scienceportal.jp/news/review/index.html#0701111>

●男女共同参画ホームページを開設！(科学技術振興機構)

<http://www.jst.go.jp/gender/>

●教育再生会議：第1次最終案 「国の関与」鮮明に 慎重論根強く難航も

18日判明した政府の教育再生会議の第1次報告最終案は、一元的に公立学校を評価する「教育水準保障機関」(仮称)構想を明記するなど、「国の関与」を強める姿勢を鮮明にしたのが特徴だ。ただ先の臨時国会の改正教育基本法の審議で、こうした議論は行われておらず、19日の全体会議では、理念先行型の最終案の取りまとめが難航する可能性もある。(毎日新聞 07/01/20)

<http://www.mainichi->

[msn.co.jp/shakai/edu/wadai/archive/news/2007/01/20070119ddm002010081000c.html](http://www.mainichi-
msn.co.jp/shakai/edu/wadai/archive/news/2007/01/20070119ddm002010081000c.html)

●文部科学省 新着情報 http://www.mext.go.jp/b_menu/news/index.htm

●竹中新疑惑 LEC大学認可

文科省が「LEC東京リーガルマインド大学」に対して改善勧告に乗り出す。この学校、04年春に構造改革特区を利用して、初めて株式会社が開校した“大学”。全国14カ所にキャンパスがあるが、教員といい、授業といい、まるで大学の体裁をなしていない。なのに、たった3カ月のスピード審査で認可が出た。その背後には、小泉改革の旗振り役だった竹中平蔵前大臣(55)の影がちらついていた。(ゲンダイネット 07/01/19)

【日本学術会議の動き】

●日本学術会議主催公開講演会「知識社会における教師の科学的教養と教員養成」

日時：2007年3月12日(月)10:00~17:00 場所：日本学術会議講堂

<http://www.scj.go.jp/ja/event/pdf/30-k.pdf>

●「TV現場も科学者規範を」 「納豆」問題で学術会議

テレビ番組の制作現場にも「科学者規範」を——。関西テレビ制作の「発掘!あるある大事典2」のデータ捏造問題で、日本学術会議は26日、テレビ番組などで科学実験の計画や実施にかかわる人は同会議の「科学者の行動規範」を守るべきだ、とする金沢一郎会長の談話を発表した。同規範は、国内のすべての科学者と技術者が対象で、相次ぐ科学論文の不正を防ぐため、昨秋発表された。研究内容の説明と公開、データの厳正な取り扱い、不正を防ぐ研究環境の確立などを求めている。談話では「国民への影響の大きい番組で捏造などの不正があれば、科学そのものに対する信頼を著しく傷つけかねない」としている。(朝日コム 07/01/26)

<http://www.asahi.com/culture/update/0126/015.html>

▼テレビ番組等における「科学的」実験についての日本学術会議会長談話

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-20-d4.pdf>

●「日本化学連合（仮称）」創設に向けて、シンポジウム開催へ

日本学術会議化学委員会、(財)化学技術戦略推進機構、日本化学連合創設準備委員会は、2007年1月23日に東京・神田駿河台の化学会館ホールでシンポジウム「21世紀の社会における学協会への期待—『日本化学連合(仮称)』創設に向けて」を開催する。時間は13時から19時まで。グローバル化の時代を迎え、地球的な課題への認識が深まるとともに、化学者や化学技術者に対しても、単なる応用、技術開発を超えた寄与、物質・エネルギー循環に関する責任をもった発言が期待されるようになってきている。(EICネット 07/01/19)

<http://www.eic.or.jp/news/?act=view&word=&category=&serial=15060>

【大学・研究機関、学協会等の動き】

●科学と平和への貢献たたえる 京大で湯川、朝永両博士の生誕100年記念

ともに京都で学び、ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹、朝永振一郎両博士の生誕100年記念講演会と式典が23日、京都市左京区の京大時計台記念館であった。京大の研究者や学生、両氏の関係者約300人が出席し、科学の発展と平和の実現に向けて貢献した両博士をたたえた。(京都新聞電子版 07/01/23)

<http://www.kyoto-np.co.jp/article.php?mid=P2007012300139&genre=G1&area=K10>

<http://gendai.net/?m=view&c=010&no=18797>

●知的財産権保護強化の是非テーマに 日米欧の専門家が法制度の観点から議論

早稲田大学21世紀COE《企業法制と法創造》総合研究所は2006年12月15日、知的財産権の保護に関する法制のあり方を探るシンポジウム「知的財産保護の到達点—保護強化の明と暗—」を、東京都千代田区の日本教育会館一ツ橋ホールで開いた。ニューヨーク大学ロースクール教授のロシエル・C・ドレイファス氏による基調講演「知的財産権の直面する課題—グローバル経済における保護水準の設定—」をはじめ、著作権や特許権をテーマとしたパネルディスカッションが行われた。(IPNEXT 06/12/15)

http://www.ipnext.jp/event/houkoku/houkoku_detail0122_03.html

●【コラム】大学の組織改革の方向と課題

出展：日本総合研究所ホームページ (<http://www.jri.co.jp/>) 「研究員のココロ (株)日本総合研究所 主席研究員：三宅光頼 2007年1月5日付」より (IBTimes 07/01/09)

<http://jp.ibtimes.com/article/column/070109/3395.html>

【科学・技術に関するトピックス等】

●アフリカ諸国、科学技術と研究レベルの向上を注目

2日間の日程で行われる第8回AU・アフリカ連合首脳会議はエチオピアの首都アディスアベバで開幕しました。34人の首脳を含むAU加盟国53カ国の代表は「科学技術、科学研究」と「アフリカの気候と変化」の二つのテーマをめぐって討議します。その中で「科学技術、科学研究」という議題は今回の首脳会議のポイントです。(CRI Online 07/01/30)

<http://japanese.cri.cn/151/2007/01/30/1@85172.htm>

●理系白書'07：第1部 科学と非科学／1 万能うたう「波動」

科学の成果や技術は暮らしに入り込み、私たちはその恩恵の中に生きている。一方で「科学的」といわれるものを信用しすぎる面もある。関西テレビ制作の「発掘！あるある大事典2」のねつ造騒動は、科学と私たちの関係を改めて考えさせる出来事だった。世間にはより巧妙に科学の衣をまとった波動ビジネスやマイナスイオンなどの「科学まがい」があふれる。「理系白書'07」は、科学と社会との境界で起きているさまざまな事象を掘り下げる。科学とどう付き合えばよいのか、科学は社会にどう発信すべきか。第1部は科学と非科学を考える。(毎日新聞 07/01/31)

<http://www.mainichi-msn.co.jp/science/kagaku/news/20070131ddm016070145000c.html>

【定期刊行物の特集等】

◎日本学術会議（日本学術協力財団発行）『学術の動向』

2007年1月号 特集1：科学者の行動規範科学技術イノベーションと学術
特集2：子どもを元気にする環境とは

<http://www.h4.dion.ne.jp/~jssf/text/doukousp/backnumber.html>

◎日本学術振興会発行『学術月報』

2007年1月号 巻頭言：学術の灯を消してはならない
特集：大学の国際戦略

<http://www.jsps.go.jp/j-info/monthly.htm>

◎(株)ぎょうせい発行『文部科学時報』

2007年1月号 特集：原子力の安全と平和利用の確保
特別記事：新しい時代の国際教育協力の動向

http://www.gyosei.co.jp/home/magazine/monka/monka_07010.html

◎科学技術動向研究センター発行『科学技術動向』

No. 70 2007年1月号 レポート1：重要な社会基盤防護に関する米国の研究開発動向
レポート2：アナログ技術の動向と人材育成の重要性
レポート3：高純度シリコン原料技術の開発動向

http://www.nistep.go.jp/achiev/ftx/jpn/stfc/stfc_all-j.html

◎文部科学省発行『文部科学広報』

第86号 2007年1月30日 平成19年度文部科学省所管予算(案)

第85号 2007年1月22日 教育基本法の改正について

第84号 2007年1月4日 教育立国・科学技術創造立国の実現をめざして

http://www.mext.go.jp/b_menu/kouhou/index.htm

【その他の雑誌等】

◎自然科学系の雑誌一覧（裳華房）

<http://www.shokabo.co.jp/magazine/index.html>

◎日経サイエンス

3月号 特集：磁性流体アート その不思議な美

<http://www.nikkei-science.com/>

◎科学

Vol. 77 (2007年) 2月号 特集：太陽系の新しい常識

<http://www.iwanami.co.jp/kagaku/>



「JSA学術情報ニュース」は、日本科学者会議学術体制部が入手し得た情報を編集して掲載します。原則として情報の要点のみを掲載し、編集者の論評等は加えません。

なお、それぞれの記事には出典を明示しますので、詳細な情報はそちらをご覧ください。

過去のニュースは日本科学者会議ホームページ(<http://www.jsa.gr.jp/>)に掲載しています。

(本号は、主に2007年1月の情報を扱っています。)